

2012年3月28日

日印協会、デリーで国交 60 周年行事を開催 注目された「日印交流の歴史 写真展」とシンポジウム「日印関係の回顧と将来」

日印協会は、インド国際会館（India International Centre；IIC）及び国際交流基金との共催で、デリーの IIC において、「日印交流の歴史 写真展」（3月14～20日）とシンポジウム「日印交流の歴史、回顧と展望」（3月14日）を開催しました。

当協会の森喜朗会長（元総理大臣）と平林博理事長（元駐印大使）など幹部が出席しました。開催場所である IIC はデリーの知的活動の中心であり、緑豊かな Lodi Garden の一郭にあります。周りには国際連合や世界銀行のインド事務所などの国際機関やインドのシンクタンクがあります。

この IIC は、東京六本木にある国際文化会館のシステムを参考として 1962 年に正式設立されたもので、開設 2 年前の 1960 年、今上天皇陛下ご夫妻が皇太子・同妃時代に訪印の際、礎石を置かれ、日本とはとても縁のある場所です。今年はその設立 50 周年でもあり、この上もないタイミングでした。

特に「写真展」は、時宜を得たものであり、来訪者に日印関係 100 年の歴史を示した大きな意義があったと言えます。

3月13日の写真展の開会式には、インド政府からアナンド・シャルマ商工大臣が主賓として出席を戴きました。式は、IIC 所長のシャルマ女史の進行で、ソラブジー IIC 会長の開会のご挨拶から始まりました。

齋木駐インド日本大使の祝辞の後、森会長が、昨年の東北大震災で亡くなられた犠牲者の方々への弔意をこめて、1 分間の黙祷を参加者全員で行いました。森会長は、震災後にインドが宮城県女川町に派遣して下さった災害救助支援隊 46 人の寒風のなかでの心のこもった救助活動、とくに遺体を棄損しないための素手によるご遺体発見活動などに関する感謝を述べ、参加者全員の涙腺を緩ませました。さらに日印協会の会長として、今回の写真展は如何に日印協会が 109 年の歴史の中で日印友好に貢献してきたかを示したものであると述べました。



森会長からソラブジー会長に対し、IIC の 50 周年のお祝いと共催に対する感謝の意を込めて、日本の『五月人形・武者かぶと』を記念の 2 枚の写真とともに贈呈いたしました。

（現在それらの記念の品は、インド国際会館の会長室に飾られています）

<五月人形・武者かぶと贈呈(写真提供：IIC)>

そのあと、シャルマ商工大臣が祝辞を述べ、「写真展」が日本と縁の深いインド国際会館の50周年にあわせて開催できたことを喜びながら、「両国は100年以上に亘って互いに相手をよく知り、知恵と知識を交換し、伝統と哲理を交換してきました」と述べ、「あの忌まわしい悲劇が日本を襲いましたが、再び貴国民の屈強さと勇気を呼び起こしました。そのような大変の中、野田首相は昨年12月28日に首脳会談のため訪印戴いたことを強く認識しております。このことはDMIC(デリームンバイ産業大動脈構想)に投資される45億米ドル(340億円相当額)に関するコミットメント以上の名誉なことです」と述べました。

そして式典は点火式に移りました。点火式ではスピーチ戴いた上記4人と主催者の一人として平林理事長が参加し行われました。点火式の後、展示された62枚の写真や日印関係の年表の観賞を行い、続いてさわやかな夕暮れ時、中庭でのレセプションでは日本のお酒と共に日本の味を少しながら賞味戴き談笑戴きました。ご夫妻での参加が多かったので、最後まで和やかにそして優雅にあちこちで歓談の音が聞かれました。



〈点火式 (写真提供: IIC)〉

左から
平林理事長・ソラブジーIIC会長・
シャルマ商工大臣・森会長・齋木駐印大使

翌14日に開催されたシンポジウムでは、日印友好の回顧と将来への展望を提言することにより、更なる友好的な日印関係の発展につながるであろうことを表明しました。このシンポジウムは、第1セッションは、ゴンザルヴェス元外務次官・元駐日大使がモデレーターを務め、アスラニ元駐日大使と平林理事長がパネリストとなり、日印関係のこれまでを回顧し、第2セッションにつなげました。第2セッションでは、平林理事長がモデレーター、榎協会顧問(元駐印大使)、ケサヴァン元ネルー大学教授・現オブザーバー・リサーチ・ファウンデーション特別研究員がパネリストとなり、最後に平林理事長が全体のまとめを行うとともに、将来の日印関係を論じ、一定の提言を出しました。

平林理事長の発言をまとめた英文のメモは、本 web サイトの「読者提言欄」に掲載されておりますので、ご参照ください。



← 第1セッション

左から、平林理事長、ゴンザルヴェス元駐日大使、アスラニ元駐日大使

↓ 第2セッション

左から、榎顧問、平林理事長、ケサヴァン元 JNU 教授



なお、「写真展」は、デリーの後、国際交流基金デリー事務所の協力により、チェンナイで開催中ですが、今後ほかのインドの都市での開催が企画されております。

また、森喜朗会長は、14日、首相公邸においてマンモハン・シン首相と会談し、旧交を温めるとともに、今後とも沢山企画されている60周年行事の成功と更なる日印友好・協力関係の促進に合意しました。森会長は、シン首相の本年秋の訪日の際には、歓迎行事を開催することを伝えました。また、森会長や平林理事長は、アシュラニ・クマール計画・科学技術大臣主催のレセプションに出席し、インドの要人たちと歓談しました。

森会長は、2000年8月に現職の総理大臣としてインドを訪問し、1998年のインドによる核実験でいったん冷却した関係を修復し、さらにバジパイ首相とともに、『日印グローバル・パートナーシップ』を宣言したことで、日印関係の「中興の祖」として、両国双方の官民から高く評価されております。平林理事長は、当時の駐インド日本大使であり、この二人が現在でも日印協会のトップとして日印交流に貢献していることは、日印の関係者から高く評価されております。

以上